

施設関係者評価実施報告書

【妙安寺こども園】

令和5年3月31日

評価報告者 藤野 貴光

① 全体評価

理念にそった「ともに育ちあう」を心がけ、保育展開が日々行われていた。職員研修では、園内公開保育をし、保育を職員で語り合う機会を設け、共通理解に取り組んだ。コロナ感染症のため園に入ることが難しいこともあったが、ホームページを通して、園の様子を発信し理解に努めた。

② 学校評価の個別評価

1, 教育課程・指導

・教育・保育要領を理解し、日々の保育実践へつなげるよう、職員の学びと振り返りを継続することが課題である。

2, 保健管理

・年2回の内科、歯科検診や日々の健康記録と管理は細やかに行われている。

3, 安全管理

・職員の当番制による毎週の安全管理を通じて、職員全体で安全管理の意識を高められている。

4, 特別支援教育

・各関係機関と連携しながら、一人ひとりを尊重した援助・支援が行われている。

5, 組織運営

・こども園の理念である、ともに育ちあうことを大切に、園児も職員も共に育ちあう組織運営がされている。

6, 研修（資質向上の取り組み）

・職員の共通理解を深める機会を持ち、個人の学びを保証できるような計画的に園内外の研修に参加している。

7, 教育目標・学校評価

・園児や園の実態、こども園の理念に基づき、園の目標が設定され、自己評価が活用されている。

8, 情報提供

・園だよりやホームページ、個人記録など、様々な媒体を通じて情報提供が行われている。

9, 保護者・地域住民との連携

・コロナ感染症により、子どもの理解を深める保護者参加の行事・地域の方と連携しての行事が少なくなっている。今後取り組んでいくことが課題である。

10、子育て支援

- ・保育士体験など、コロナ感染症により取り組むことが出来ていないが、子育てについての相談はその都度話す場が設けられている。今後取り組んでいくことが課題である。

11、預かり保育

- ・その都度、要望がある時に行っている。

12、教育環境設備

- ・教育器具の充実が常に検討されている。

③ その他必要な評価

1、食育

- ・ランチ会や食育週間・野菜栽培・クッキングなど食に興味を持てるような活動に取り組んでいる。

2、擁護

- ・一人ひとりの子どもがあんしんして過ごせるような環境やことばが怪我されている。

3、行事を通した子ども理解

- ・行事を通して、一人ひとりの学びにつながるよう環境構成や言葉かけが行われている。

④ 課題と検討

- ・保護者、地域住民との連携など、コロナ感染症に気をつけながら取り組める活動や行事を取り入れていくことが課題である。
子育て支援など取り組み方を考え行っていくことが今後の課題である。